

技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

日時 令和4年5月27日（金）公開授業Ⅱ
学級 岩手大学教育学部附属中学校
1年B組 35名
会場 被服室
授業者 小山 滯

1 題材名

住居の機能と安全な住まい方

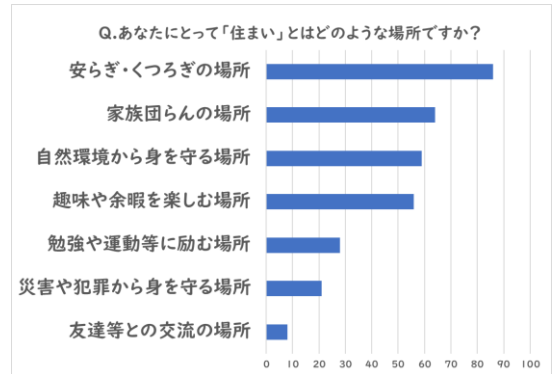
2 題材について

(1) 生徒観

本校1年生136名を対象に行った住まいに関する実態調査の結果を図1に示す。生徒にとって、住まいは家族と安心して過ごせる安らぎの場であることがわかる。家庭環境に目を向けると、一世帯住宅に住む生徒は学年の85%であり、日常生活では祖父母など高齢者と関わる機会は少ないことがわかる。また、一緒に住む家族の中に乳幼児がいる生徒は学年の6%である。このように、少子高齢社会の進展により核家族化が進んでいるなど、生徒の住生活事情は様々であることがわかる。また、本校は学区が広範囲であるため、学校自体が特定の「地域」と根付いているという認識が薄い。アンケート結果からも、地域住民との関わりは「挨拶を交わす程度」「ほとんど関わりがない」合わせて52%である。住民との関わりも希薄であると考えられる。

そこで、安心安全な住まいづくりを学ぶことで、住生活を営む立場にいる一人として、よりよい住生活の実現へ向け主体的に課題解決に向かう生徒の育成を図りたい。将来は、家族の中心として家庭生活を担うことから、家族全員がよりよい生活を送るために必要なことは何か自分事として捉えさせ、中学校卒業後の自分の生き方へ活かしていこうとする態度を育みたい。

図1 住まいに関する実態調査（実施対象：本校1年生回答数136名）



(2) 教材観

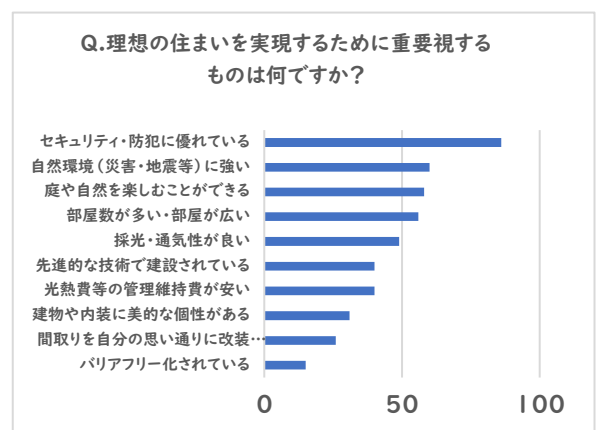
住生活の内容は、課題をもって、健康・快適・安全で豊かな住生活に向けて考え、工夫する活動を通して、家族の生活と住空間との関わり、住居の基本的な機能、家族の安全を考えた住空間の整え方に関する知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して、住生活の課題を解決する力を養い、住生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成することを目指している。

本題材は、新学習指導要領「B衣食住の生活（6）住居の機能と安全な住まい方」にあたる。ここでは、住居の機能と安全な住まい方について、課題をもって、住居の基本的な機能について理解し、家庭内の事故を防ぎ、自然災害に備えるための住空間の整え方に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、家族の安全を考えた住空間の整え方を工夫することができるようになることをねらいとしている。

私たちは住まいで、家族と団らんをしたり、食事をしたり、様々なことを行っている。将来自分の家族をもち、安全で快適な住生活を維持するためには、生徒自身が住生活にかかわる基本的な知識・技能や、地域社会と連携して住生活を工夫する能力を身に付ける必要がある。また、平成23年に発生した東日本大震災や平成28年の熊本地震、平成29年の九州北部豪雨など毎年のように自然災害が発生し、地震による家屋の倒壊や豪雨による土砂崩れ・洪水により多くの尊い命が失われている。私たちはこのような自然環境の変化に対応し、災害に対する備えを日頃から自分事として行うことが必要とされている。そのために、住まいの災害対策の知識をもち、家族や地域社会との連携を図り、いざという時に助け合える関係作りをする必要がある。

本題材では、導入時に住まいのアンケートを実施し、その中で自分の住生活について振り返るきっかけとした。また、小学校で学習した住まいのはたらき（暑さ・寒さ、通風・換気及び採光に重点を置いた快適な室内環境の整え方）を振り返り、本題材で解決していくべき課題に迫った。その後、世界や日本の住まいの例を挙げながら、住まいのはたらきや住まいに必要な空間など、住生活を営む上で必要な知識を学んでい

図2 理想の住まいに関する調査（実施対象：本校1年生回答数136名）



く。その学習をふまえて、家族の安全を考えた安心安全な住まい方について工夫し、実生活へ活かそうとする実践力を育みたい。

(3) 教科研究との関わり（指導観）

本校技術・家庭科家庭分野において育成を目指す資質・能力を下記の通り整理した。

<p>【思考力等】 問題を見いだして課題を設定し、自分と家族・地域の人々との立場を往還しつつ多様な視点で実践活動を評価することができる力と、よりよいものを生み出していく問題解決能力。</p> <p>【協調性等】 立場の違う者と協働し、問題解決のために主体的に話し合いに参加し、意思決定したり、合意形成したりしていく態度。</p> <p>【主体性等】 生活や社会の中の問題に気が付く感性と力。その問題に正面から向き合い、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする態度。</p>
--

① 主体的・対話的で深い学び

新学習指導要領では、生活の営みに係る見方・考え方について、「家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること」としている。

本題材では、安心安全な住まいの実現を目指すために、実際の住まいでの現状や対策を観察したり、安全対策等について調べたりするなど、自らの学習を調整しながら学習に向かう「主体性」を育めるようにした。また、仲間と意見交流しながらアイデアを出し合い、安心安全な住まい方について考え、評価・改善していく学習活動を通して、お互いに協働し合う「協調性」を育成していく。さらに、住まいのはたらきや家族がお互いに心地よく住むための工夫などについて学んだ知識を関連付けながら、誰もが安心して安全に住生活を送るために本当に必要なことは何なのか考え、幼児や高齢者など特に配慮すべき対象者について考えをめぐらす相手意識をもちながら問題解決していく「思考力」を育成していきたい。

② ICTの効果的な活用

住まいの安全対策の実践例の写真や動画等を自由に見られることができるようにすることで、問題解決の過程で、生徒は必要な情報を必要に応じて取捨選択しながら取り出すことができる。また、情報共有機能を使用し、他者の考えを参考にしながら自分自身の問題解決に役立てることができる。エキスパート学習やジグソー学習を織り交ぜながら、専門的に知識を深めつつ、調べたことを相手にわかりやすく伝えるための一助とした。時代の変化に対応した考えや、様々な家庭環境に応じた解決策が必要になる教科の特性を踏まえながら、課題解決に向かわせていく。

3 題材計画

(1) 題材の目標

【知識及び技能】

・家族の生活と住空間との関わり、住居の基本的な機能、家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解する。

【思考力・判断力・表現力等】

・家庭内事故や自然災害における家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】

・家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現へ向けて、住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、家庭や地域で実践しようとする。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解している。</p> <p>・家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。</p>	<p>家庭内事故や自然災害における家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p>	<p>家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現へ向けて、住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、家庭や地域で実践しようとしている。</p>

(3) 指導と評価の計画

	学習活動 (★…ICT活用)	評価規準・評価方法		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	<p>問題発見・必要な知識 【事前アンケート実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住まいを学ぶ意味について考える。 ・住まいのはたらきや住まいに必要な空間について考える。 <p>★学習支援サービスでのアンケート実施、画像資料活用</p>	<p>①家族の生活と住空間との関わりについて理解している。 【ワークシート】</p>		<p>①家族の安全を考えた住空間の整え方について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。【ワークシート、OPPシート、行動観察】</p>
2	<p>必要な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族がお互いに心地よく過ごすための工夫について話し合う。 ・住まいの空間の使い方について考える。ライフステージによって住まい方を変えること、お互いに気持ちよく過ごすためのルールや話し合いが必要であることをふれる。 	<p>②住空間の基本的な機能について理解している。 【ワークシート、ペーパーテスト】</p>		
3	<p>課題発見を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果から、(アンケート上位項目から抜粋)安心安全な住まいの実現に必要な視点を「セキュリティ・防犯」「自然災害」「室内環境汚染」「家庭内事故」に絞り、モデル家族の家にあてはめ、住まいの課題点を洗い出す。 <p>★ワードクラウド活用</p>		<p>①家庭内事故や自然災害における家族の安全を考えた住空間の整え方について、問題を見いだして、課題を設定している。 【ワークシート】</p>	
4	<p>解決に向けた実践活動① 【エキスパート・ジグソー学習①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心安全な住まいの実現に必要な視点「セキュリティ・防犯」「自然災害」「室内環境汚染」「家庭内事故」について、対策に関する知識や情報を収集する。 <p>★情報検索機能活用</p>	<p>③家庭内事故の対策や自然災害への備えなど、家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。 【ワークシート、ペーパーテスト】</p>		<p>②家族の安全を考えた住空間の整え方について、課題の解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 【ワークシート、OPPシート、実践レポート、行動観察】</p>
5	<p>必要な学び</p> <p>○ゲストティーチャーの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「家庭内事故」における「幼児」「高齢者」への対策について深める。(4つのテーマ全てに共通する配慮者) ・幼児：小さな子どもをもつ家庭の工夫 ・高齢者：介護福祉施設の工夫 ・「原因」と「対策」を関連させる <p>★ICT活用：写真・動画</p>		<p>②家庭内事故や自然災害における家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫している。 【ワークシート、ペーパーテスト】</p>	
6 (本時)	<p>解決に向けた実践活動② 【エキスパート・ジグソー学習②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫することができる。 ・モデル家族の住空間の課題を解決するために、グループ内で、「セキュリティ・防犯対策」「自然災害対策」「室内環境汚染対策」「家庭内事故対策」を考える。 <p>★タブレット端末を活用したシミュレーション</p>		<p>④家庭内事故や自然災害における家族の安全を考えた住空間の整え方についての課題の解決に向けた一連の活動について、考察したことを筋道を立てて説明したり発表したりしている。 【ワークシート、ペーパーテスト】</p>	<p>③よりよい住生活の実現へ向けて、家族の安全を考えた住空間の整え方について工夫し創造し、実践しようとしている。 【ワークシート、OPPシート、実践レポート、行動観察】</p>
7	<p>評価・改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の安全を考えた住空間の整え方について、評価したり、改善したりすることができる。 ・前時の発表をもとに、グループごとに新たな気づきを整理したり、解決策の改善点を検討したりする。 <p>★発表データ活用</p>		<p>③家庭内事故や自然災害における家族の安全を考えた住空間の整え方について、実践を評価したり改善したりしている。 【ワークシート、実践レポート】</p>	
8	<p>学びの目覚化 ★夏休み課題★(生活の課題と実践)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「セキュリティ・防犯対策」「自然災害対策」「室内環境汚染対策」「家庭内事故対策」から、自分の家の課題に合わせてテーマを1つ選択し、調べ学習をしてくる。 ・実践交流会 	<p>各時間での見とり 【形成的評価】 + 題材の最後に実施するペーパーテスト (②・③) 【総括的評価】</p>	<p>各時間での見とり 【形成的評価】 + 題材の最後に実施するペーパーテスト (②・④) 実践レポート(③) 【総括的評価】 ※題材を進める中でも見とっていく。</p>	<p>主に見とる場面は、 ① 題材全体 ② 4～8時間目 ③ 6～8時間目 【総括的評価】</p>

4 本時について

(1) 主題

安心安全な住まい方を考えよう

(2) 指導目標

家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫している。

(3) 評価規準

【思考・判断・表現】

家庭内事故や自然災害における家族の安全を考えた住空間の整え方についての課題の解決に向けた一連の活動について、考察したことを筋道を立てて説明したり発表したりしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

家族の安全を考えた住空間の整え方について、課題の解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。

(4) 授業構想

生徒は前時まで、住空間の使い方の工夫や安心安全な住まいの実現へ向けての課題解決のために必要な基礎知識を学んできた。本時は、安心安全な住まい方について工夫していく。知識構成型学習ジグソー学習や全体での意見交流を通して、専門的に深めた知識をもとにしながら、住まいの課題点を的確にとらえた対策を考えていく。設備面の整備、そしてお互いに気を配り安心できる環境を作ることなど、住まい方自体の工夫の大切さにも気付かせていく。また、さまざま対策の中でも、自分たちが実践できそうなことは何か考えさせる。住生活を営む環境をつくる立場にいる一人として主体的に学習に向かわせていく。

(5) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・予想される生徒の反応等	指導上の留意点および評価 ・指導の留意点 ○評価
導入 5分	1. 学習内容を確認する ・前時までの段階で調べたことを確認する。 住まいの工夫を考える視点 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">セキュリティ・防犯, 自然災害 (台風・水害・地震等) 室内環境汚染 (カビ・ダニ・化学物質等), 家庭内事故</div> 特に事故に遭いやすい対象者 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">幼児 高齢者</div>	・3分前学習で、グループごとに調べた内容について振り返る。 ・生徒の中から本時で学ぶべき内容を引き出させる。
展開 40分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">【学習課題】「安心安全な住まいの実現」のために、どんな対策が必要？</div> 3. 住まい方の工夫を考える 設定：危険が潜んでいる住居，幼児・高齢者がいる家族構成 ・祖母，父，母，子ども①（小学生），子ども②（1歳半） 【エキスパート活動】 各班，一つの視点について工夫を考える (例) トイレ・階段に手すりをつける 動く危険なものは固定しておく 【ジグソー活動】 ・自分で担当した視点の発表 ・エキスパートの視点以外についても，意見を出し合いながら工夫を考える ・代表グループ発表，全体で意見交流	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ○家庭内事故や自然災害における家族の安全を考えた住空間の整え方についての課題の解決に向けた一連の活動について、考察したことを筋道を立てて説明したり発表したりしている。 【思考・判断・表現】 ※既習事項を活用して問題解決を図っている姿を評価 </div> ・ハード面，ソフト面の両面から住まいの工夫を考えていく。課題点を捉えた対策を引き出せるよう，グループ活動や全体交流をコーディネートする。
終結 5分	5. 本時を振り返る（OPPシート） <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 生徒の振り返り（記述例） 今日は、ジグソー学習を通して、地震や台風などの自然災害への対策について詳しく考えることができた。小さい妹がいる友達の話を聞いて、幼児が触ると危険なものは高いところに収納することがよいことも知ることができた。これからは、日頃から部屋を片付けるなど、自分ができることを行動に移していきたい。 </div> 6. 次時の見通しを持つ	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ○家族の安全を考えた住空間の整え方について課題の解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ※意見交流をもとによりよいものにしようしたり、最後まで課題解決に向かう姿を評価 </div>